

## 序

当研究所は、昭和54年度も恒例の事業として教育論文集の刊行を企画し、論説の部、実践記録の部に分けて原稿募集をしましたところ、各学校の先生方から16編の原稿をお寄せいただきました。

本年は、16編のうち2編が論説、14編が実践記録となっています。

論説の内容は、今回の募集テーマを取り上げた、生涯教育の視点に立った外国における成人教育の問題と、余暇の増加に伴う余暇時間の活用の問題を、自己教育の視点に立って考察し、生涯教育のあり方を追求しています。

実践記録の内容は、14編のうち7編が教科指導に関するもの、1編が道徳教育に関するもの、3編が教科外の教育指導に関するもの、3編がアメリカ教科書の翻訳に関するものです。

教科指導に関するものは、児童・生徒自らが学んでいくところに視点をあてた研究実践であり、これは、新学習指導要領のめざす主体性をもった人間育成をふまえた研究であると考えます。また、教科指導以外に関するものも、児童・生徒理解に視点をあてた研究であり、直接人間資質の形式にかかわる問題へと拡大、深化しているようにも考えられます。さらに、これまでも翻訳されてきましたアメリカ教科書については、引き続き今回も、「自己表現と行為」「図工」「アイデンティティーの起源」が紹介されています。翻訳された紹介と合わせて、研究所保管のアメリカ教科書を読まれるようおすすめいたします。

いずれの論文も、最近の教育思潮の動向を敏感には握しながら、しかも腰をすえて教育の原点を探るといふ様子が伺われます。特に、いくつかの学校の先生方が共同で研究したものをはじめ、昨年度の掲載論文の一連のものとして、引き続き今回も応募されたものもあり、研究の深まりがみられます。このような先生方の姿勢こそ、今後の新しい足利の教育を築く大きな原動力になり、大きな期待を感じております。

以上、各先生方からそれぞれ特徴をもった論文をお寄せいただきましたが、各学校における日々の教育実践に十分生かされ、本市教育の発展に寄与されることを期待いたします。

終わりに、論文をお寄せくださった先生方をはじめ、関係者の方々にお礼申し上げますとともに、みなさまのますますの御活躍を祈念して序といたします。

昭和55年3月

足利市立教育研究所長

川 上 薫